



No. 125 2013年 2月

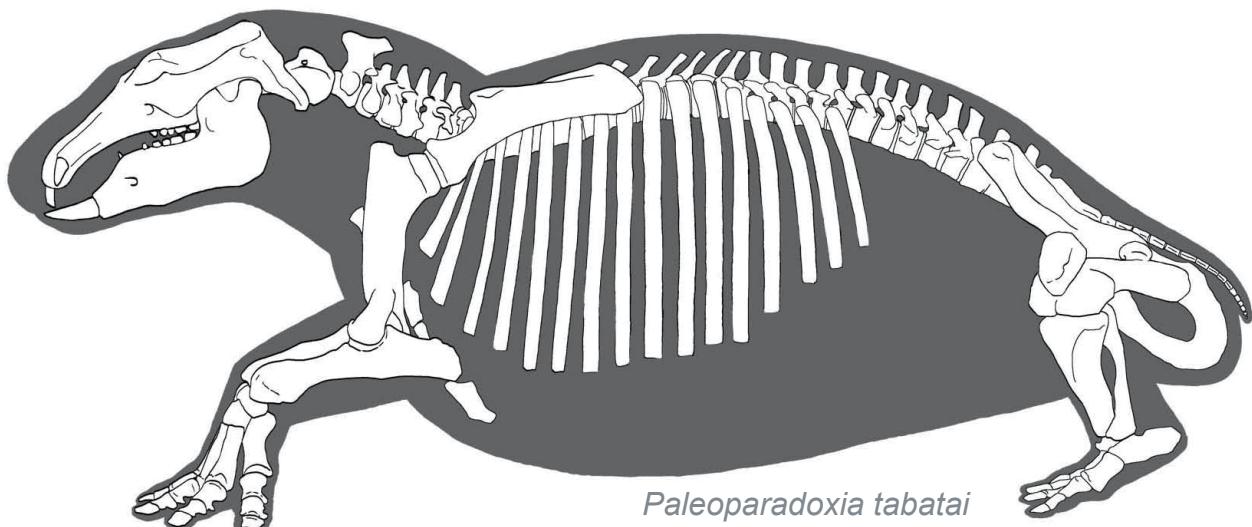
# 博物館だより



## 博物館へ行こう！

博物館で見られる動物達

このコーナーでは、足寄動物化石博物館で展示されている動物達を紹介していきます！



### パレオパラドキシア

むかしの変わった動物という意味  
体長約1.5～3m

デスマスチルスと同じ仲間（科がちがう）です。奥歯はデスマスチルスよりも小さく数が多いのが特徴。関節の角度もすこしづかうので、デスマスチルスとは別の生活場所や食べ物を考える必要がありそうです。

足寄動物化石博物館 フォストリーあしょろ

指定管理者 NPO法人 あしょろの化石と自然

〒089-3727 北海道足寄町郊南1丁目 TEL 0156-25-9100 FAX 0156-25-9101

[staff@museum.ashoro.hokkaido.jp](mailto:staff@museum.ashoro.hokkaido.jp)

<http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp> (博物館だよりpdf版あり)

No. 125

2013年 2月20日発行

(年4回発行)

# ○館の動き

## ①大洗水族館への標本(レプリカ)の貸出

茨城県の大洗水族館にアショロカズハヒゲクジラなどのクジラ類の復元模型を貸し出しました。企画展「クジラいるか?」で展示されます。2013年1月19日から5月6日まで開催です。



大洗水族館での展示風景

## ②トド・アザラシ・シカの解剖

筋肉と骨との関係を調べるために解剖を行いました。

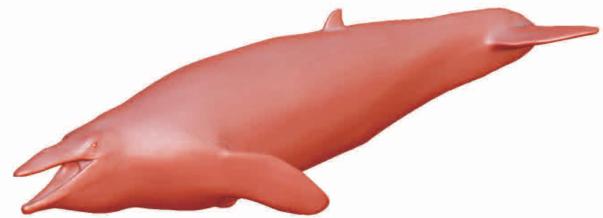
化石は骨しか残らないので、どのように筋肉がついて、どの様に動物が動いていたかが分かりにくくなっています。解剖は化石になった動物を理解するために必要なものです。



エゾシカ

## ③3DCGソフトの導入

パソコン上で動物の造形ができる3DCGソフトを導入しました。アナログの造形に比べて短時間で製作できます。よりリアルな復元画への応用や、3Dプリンタでの出力なども視野に入りていきたいと考えています。

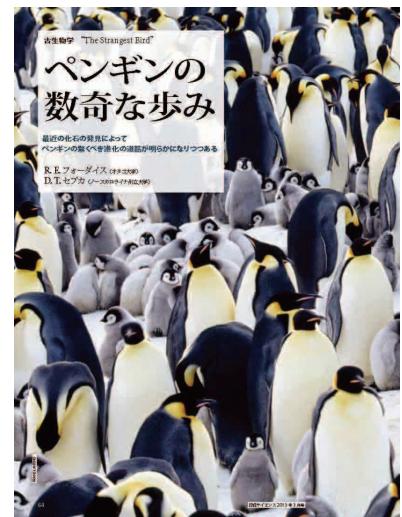


アショロカズハヒゲクジラの3D復元

## ④記事監修

### 日経サイエンス3月号『ペンギンの数奇な歩み』

1月25日発売の日経サイエンス3月号に掲載された『ペンギンの数奇な歩み』（原題: The Strangest Bird 世界で一番不思議な鳥）を安藤学芸員が監修しました。記事は化石や骨から見たペンギンの進化に関する研究の最前线を紹介するもので、安藤学芸員の研究も紹介されています。博物館のホッカイドウムカシオオウミウとペンギンは何が違うんだろう？博物館で記事を読んだり、学芸員に聞いてみよう！



日経サイエンス3月号 64ページ

# 小西博士 モササurusを語る!

## ○モササurus類とは?

モササurus類は、今から約9800~6500万年前の恐竜時代後期・白亜紀の海に生息していた大型爬虫類です。もともとは陸上生活していたトカゲの仲間が海の生活に適応した結果、手足がヒレに進化し、それでバランスをとりながら、長く力強い尾の先端に発達した三日月型の尾ビレを左右に振って、サメのように泳ぐようになったと考えられています。ちょうどサメのからだにオオトカゲの頭をくっつけたような動物を想像していただくと、より正確にモササurus類をイメージしていただけるでしょう。大きな種類では10mを超えるものもいた彼らは、当時の海の生態系で頂点に立ち、魚を主食としつつもウミガメやウミドリ、また他のモササurus類を捕食するものもいました。アンモナイトも食べていた可能性があります。

これまでの発見から、モササurus類は世界中の海に生息していたことが分かっています。その分布域は、当時の赤道域から実にカナダ北部や南極などの高緯度地域にまで広がっていました。彼らもまたクジラのように回遊したのか?寒冷な水域と温暖な水域とでは生息する種類が異なったのか?どれほどの水深まで潜れたのか?など、モササurus類の進化や生態に関する研究が、カナダの研究者を中心に、今盛んにおこなわれています。

## ○むかわ町産のモササurus類のキャストづくり

日本からは、エゾミカサリュウ(国の天然記念物)と呼ばれる標本を含め、ここ北海道を中心に数多くモササurus類の化石が発見されています。今回、むかわ町で新たに発見されたモササurus類のキャスト(レプリカ)づくりを行いました。今後、この標本を用いた研究で、いまだ謎に満ちた本邦産モササurus類の進化や多様性について明らかにしていきたいと考えています。



小西卓哉さん(左)  
アラン・リンドウさん(右)



モササurus類の復元画



キャストづくり

小西卓哉さんは、香川県の出身で、学生時代からカナダ・アルバータ大学に留学し、大学院で博士号を取得の後も、同大学でモササurusについて研究を続け活躍されています。このたび、穂別博物館が所蔵するモササurusの化石を研究するにあたって、レプリカをつくることになり、同大学の技師アラン・リンドウさんとともに来日されました。化石工房が充実しサポートが可能な足寄動物化石博物館を、作業場所として提供することになりました。館のスタッフと研究や技術の交流ができました。

館長

## ○ 探鳥会のおしらせ

わたしたちの生活にもっとも身近な野生動物である鳥たちを足寄の野山で探りませんか。

恒例の、春の探鳥会をおこないます（参加費無料）。

第1回 4月7日（日）午前8時

川向のJAあしょろ乾燥工場前集合  
(栄町から共栄橋をわたったところ)

第2回 5月12日（日）午前8時

里見が丘公園駐車場の芝桜園入り口集合  
(郊南交差点から西へ、国道241号沿い)

\*不明な点は博物館までお問い合わせください。



探鳥会の様子

各回とも2時間くらいです。十分な防寒で、第1回は長靴を履いてきて下さい。双眼鏡、カメラ、筆記用具などをお持ちください。

## ○ 来年度の予定 (現地の事情などで、日にち・順番 がかわるかもしれません。)

### 化石教室

6月23日「茂螺湾・螺湾」500万年前の貝化石など

7月21日「釧路市阿寒」500万年前の貝化石

9月 8日「白糠町右股」3000万年前の貝化石



### 地質の日協賛イベント

5月12日「石はみがくと玉になる」詳細は次号で！

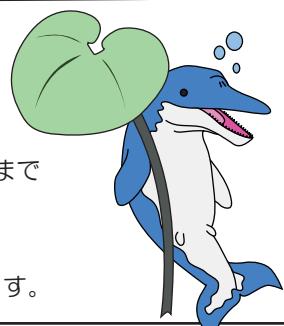
#### 足寄動物化石博物館の利用について

○開館時間 午前9時30分～午後4時30分（入館締め切り時刻）

○休 館 毎週火曜日（祭日の場合は開館し、翌日またはその後の平日）  
年末（12月30日から）・年始（1月6日まで）※2013年は4日まで

○料 金 一般 400円、 小中高・65歳以上 200円  
幼児は無料。 足寄町内の小中学生は無料。

※館の主催事業の際は、無料にすることがあり、その都度お知らせします。



#### 編集後記

研究のため足寄を訪れているモササウルスのスペシャリスト、アルバータ大学の小西博士に、復元イメージが大きくかわるなど研究が進んでいるモササウルスについて話をうかがいました！（3ページ）